

平和

おはなしのくに かわいそうなぞう

放送日：2007年7月9日 放送時間：15分



対象校種 小学校3～6年 中学校

対象教科 総合 道徳

この番組の良さ



●「朗読」によって物語にいざなう番組

「おはなしのくに」は放送開始30年を超える朗読番組です。日本の昔話や世界の童話を、一流の語り手が表情豊かに語り、読み聞かせてくれます。また、登場人物や情景をイメージしやすくするために一人芝居や挿絵も盛り込み、子どもたちを物語の世界へといざないます。

「かわいそうなぞう」は、軍命により動物たちが次々と処分されていく残酷で悲しい物語ですが、朗読や簡単な挿絵を通して視聴することにより、情景をイメージして理解することができます。

●戦争を異なる視点で捉えるために

太平洋戦争末期、戦況悪化に伴い、上野動物園では、爆撃を受けて動物たちが檻から逃げ出したら大変だと、軍の上層部から殺処分を命じられました。かわいがってきた象を仕方なく殺さざるを得ない飼育員の苦悩と、食べ物を与えられずに衰弱し、死んでいく賢い象。この番組を通して、これまでと異なる視点から、戦争がもたらす悲しみや悲惨さを考えることができます。

番組活用のポイント

●戦争の残酷さや悲惨を身近なものとして

「かわいそうなぞう」は、東京都台東区にある上野動物園が舞台となっています。第二次世界大戦の最中に、実際にあった出来事をもとに制作されたと言われてしています。総合的な学習の時間や社会科などの時間において、平和学習や戦争について学習する際には、国同士の争いや戦う兵士、被害を受ける住民などの視点に立った学習が多く見られますが、遠い昔のことや他の国のことだとあまり身近に捉えられない場合もあります。番組では、子どもたちが大好きで楽しいはずの動物園において、戦争という非常時に飼育している人間が殺さざるを得なかった象や動物たちを通して、戦争の残酷さや悲惨さを身近なものとして考えることにつながります。

●「特別の教科 道徳」の教材として

小学校の遠足や社会見学の場所としても足を運ぶことの多い動物園は、子どもたちにとっても身近な場所であると言えます。動物園に行くことで、動物を見学したり、触れ合ったりすることができます。普段の生活では味わえない体験や、動物たちの生きる環境や行動を通して、さまざまなことを学ぶことができます。そのような身近な存在であるからこそ、この番組は、特別の教科道徳の教材としても活用することが可能です。「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、「19 生命の尊さ」、「20 自然愛護」などの内容項目が考えられます。「命の尊さ」として活用する場合は、これまで大切に可愛がってきた飼育員の気持ちや、エサをねだるために弱体で必死に芸当を見せるトンキーやワンリーの姿や気持ちに着目することで、動物の命を大切にしようとする思いを改めて高め、身近な動物に優しい心で接しようとする態度を養うことができます。



執筆者

西原町教育委員会

指導主事

甲斐 崇

戦争はどのような被害をもたらすのだろうか？ 平和のためにできることを考える。

対象校種

小学校3～6年

対象教科

総合

[授業時間 45分] まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> •戦争についてのイメージについて聞く。 •戦争報道なども踏まえ、戦争がどのような被害をもたらすのか、話し合う場を設定する。 •太平洋戦争末期に、東京の上野動物園で、ぞうなどの動物たちが処分されたことを紹介する。 •課題意識をもって番組を視聴できるよう、動物たちがなぜ処分されなければいけなかったのかという疑問を持ち、視聴に必然性をもつことができるようにする。 •番組視聴後、上野動物園の動物や象が処分されていく理由や過程について、各自で整理していく。また、動物たちや飼育員の心情についても考えるように促す。 •個人で整理したことについてグループなどで話し合い、課題について明らかにする。 •罪のない動物たちが処分されないといけなかった戦争について、それぞれ考えをまとめる。 •改めて戦争について、疑問に思ったことや、調べてみたいことなどを考えノートにまとめる。